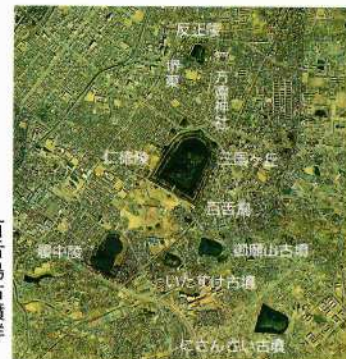




百舌鳥古墳群



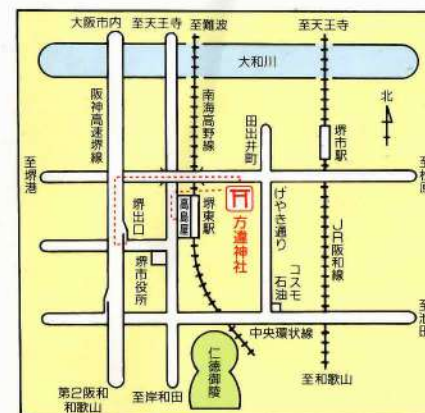
神功皇后御馬繫松旧蹟 境内にあり、神功皇后御馬を繫がれしと云ふ。

方違神社の鈴 神功皇后が堺の浦へ御上陸になり三國ヶ丘で方違の蔵をせられた時、皇后は日頃お守り本尊のやうにされた時、黄金の小雞を丘に埋められ「汝はこゝで永久に民人に曉を告げよ」と仰せられた。それから毎朝東天紅を染む頃、金鈴を振るやうになり、民人たちはその聲に毎朝目をさました。方違神社の南方にある鈴山がその丘であると言はれてゐる。此の金鈴の聲を聞くと幸福が来るといふので節分の夜など此の鈴山の麓で夜を明すものが多かったとのことである。「伝説の堺」から



境内地より眺めた反正陵

鈴山 現今は反正陵の陪塚なれど、神功皇后此山の下に金の鶏を埋められしと伝ふ。この故事に依り社務所にて土鈴(幸鶏の鈴)を授与す。



- 南海高野線 堺東駅より徒歩東へ5分
- 南海本線 堺駅よりタクシー5分
- JR阪和線 堺市駅より西へ徒歩10分
- 阪神高速堺線 堺出口より車で3分
(出口を出てすぐの信号でUターン、2つ目信号右へ)

〒590-0021 大阪府堺市北三国ヶ丘町2-2-1

方違神社社務所

電話(0722)32-1216

方災除および諸祈願の御申込み

方違神社は古くから方災除け守護神として方位・地相・家相・厄除け等に由来する一切の災いから守って頂く為、方除の御札、粽・御砂の授与並びに、新築改造・転宅安全祈願の他にも安産祈願・初宮詣・七五三詣・学業成就・合格祈願・無病息災・家内安全・諸業繁栄・交通安全・旅行安全・病氣平癒・心願成就等の御祈禱も肅行しております。

詳しくは社務所へ御照会下さい。

御祈禱受付 午前八時半より午後四時まで

定休日

毎月九日・十九日・二十九日は御祈禱を休みます

(日曜・祝日・大安を除く)



●創建

当宮の起源は古く、人皇十代崇神天皇八年十二月二十九日(西暦前九十年)勅願により創建される。

●御祭神

八十天万魂神(天神地祇)
素盞鳴命(天照大神の御弟神)
三箇男大神(住吉大神——表筒男・中筒男・底筒男神)
方違幸大神(住吉大神)

息気長足姫命(神功皇后)

●合祀御祭神

大鷦鷯天皇(仁德天皇)
去来穗別天皇(履中天皇)
瑞齒別天皇(反正天皇)
向井大神
菟道稚郎子命(仁德天皇の御弟君)
百濟王仁(菟道稚郎子命の学問の師)

水天宮外十三柱神

末社

稻荷社・神明社・八幡社

創祀後、時を経て神功皇后三韓より凱旋後住吉大神の御神教に従い此地に天神地祇を祭り、応神天皇の御代、素盞鳴尊、三箇男神及び神功皇后を合祀、方違大依羅神と号す。明治四十年二月六日村社水天宮を合祀、続いて同年十月十二日郷社向井神社、明治四十一年十二月二十一日境内社八幡社、及び武内社を合祀し、現在に至る。

●御由緒

当神社奉斎地は——「三国山こずえに住まふむささびの鳥まつがごとわれ待ち瘦せむ」と、『万葉集』にも歌われているごとく、摂津住吉郡、河内丹治比郡、和泉大鳥郡の三国の境界なるが故に、「三国山」「三国の嶺」また「三国丘」とも称され、奈良時代には僧行基が此辻に伏屋を設け旅人の休憩に供したので、人馬往來の要衝であった。

また、平安時代には、熊野詣の通過地点であったため、熊野詣の人々は必ず当社へも参詣し、旅の安全を祈ったという神輿行禊の地であり、藤原定家の『後鳥羽院熊野御幸記』にある、「次に堺に於て御禊あり」とは、当地のことである。

この三国の境(ちなみに「堺」の地名はこれに由来する)で何処の国にも属さない、又方位の無い清地であるという考え方に依りその境内の御土と菰の葉にて作られた粽は、悪い方位を祓うという信仰を以て、古きより方災除の神として御神徳を仰ぐ参詣者で賑っている。



万葉集の歌文の碑



『方違宮縁起』巻首(堺市博物館収蔵)

交野左兵衛権佐惟爾朝臣、享保14年(1729年)~翌年にかけて、25歳のときに、当社の伝説に基いて、神功皇后が方違のまつりを執行されているのを描いたもの。



境内地にある三国丘石碑

社伝を抜粋すると、崇神天皇五年、国内に疫病が流行し、多くの民が死亡。同床共殿の神勅によって宮中に祭られていた天照大神を、同六年倭の笠縫邑に遷す。また神託によって大物主大神と倭大国魂神を祀り、さらに、八年十二月二十九日に、物部大母呂隅足尼(宿禰)——物部氏八世孫・矢集連等祖——を遣わして、此地に素盞鳴命を祭らせ給うたところ、疫病は途絶え、五穀は豊穰となった。

その後、垂仁、景行、成務、仲哀天皇と続き、仲哀天皇崩御の年、神功皇后は神託を得て、熊襲を征討、さらに神助を得て新羅を親征する。

皇后は新羅から凱旋の途次、皇子(後の応神天皇)とは異腹の鹿坂・忍熊二王の叛乱に遭い、これを討ち平らげた。この折に、住吉大神の御神教により、神武天皇の丹生川上御齋禊の故事に倣はせられて五月晦日この地において御自ら八十平瓮を作り、天神地祇を祀り、菰の葉に埴土を包み粽として奉り、皇軍の方災除を祈り、勝利に導いた。

その後、今の住吉に住吉大神を奉斎することによって、この垂跡の地を明神と崇拝し、後世、方災を除かんが為にこの地に神霊を留めて方違社と尊み奉った。以後、世の人、家土蔵を建てる時、あるいは住居を転ずる時、また、旅に出る時は、当社に詣で方違の神符、粽を受けるようになる。

●当社関連文獻に見える方違祈願

- 仁徳天皇六十七年冬十月天皇遊獵して当地に行幸し、三箇男大神及び息長帯足姫命（神功皇后）を祀らしめ給う。
- 孝徳天皇、豊崎宮に遷都のみぎり（六四五年）奉幣使を遣し方違祈願し給う。
- 弘法大師空海、延暦二十三年（八〇四年）入唐の折、旅の安全を祈りて方違祈願し給う。
- 後白河法皇の平治元年（一一五九年）十二月、藤原基実の奏請により従三位を授与せらる。
- 平清盛の奏請により、安徳天皇福原遷都のみぎり（一一八〇年）方違祈願し給う。
- 後鳥羽天皇の文治五年（一一八九年）三月、皇居修理の為に祈願、社殿を造営さる。
- 後醍醐天皇のみぎり、永福門院の御旨により勅願所に定められ、修理のときは住吉神社と同時に与かり、徳川時代もこれにならぶ。
- 後柏原天皇、永正三年（一五〇六年）足利義澄社領九十石を寄す。以後豊臣氏、徳川氏に至るまで此社領故なり。
- 徳川家康、元和元年（一六一五年）大阪夏の陣の折、今井宗薫に命じ武運長久を祈願す。
- 明治元年（一八六八年）九月二十日、東京遷都により明治天皇京都を出発し東京に向かう折、十七日間の祈祷の命を蒙る。

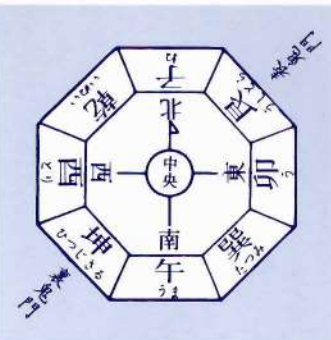
●御神徳

以上の如き御由緒に依り、当社は古より方災除の神として知られ、普請、転宅、旅行等の場合には当社の神符、御砂及び粽を受け、或は方除祈禱の修祓を望む人が多い。

『摂陽落穂集』にも記載されているごとく、摂河泉の国境は、摂津の国から眺めると南である。和泉の国から眺めると北である。つまり南であって北であるので、南北の方角を相殺している。

同様に東と西も相殺しているので、方角は無いも同然であるという考えかたにより、どの方角が悪いということを知っているというだけでなく、いったん方違神社へ行つて参拝してさえおけば、一挙に三国の土を踏めるので、方違になっているという考えかたで古くより民衆の不安を解消してきた。

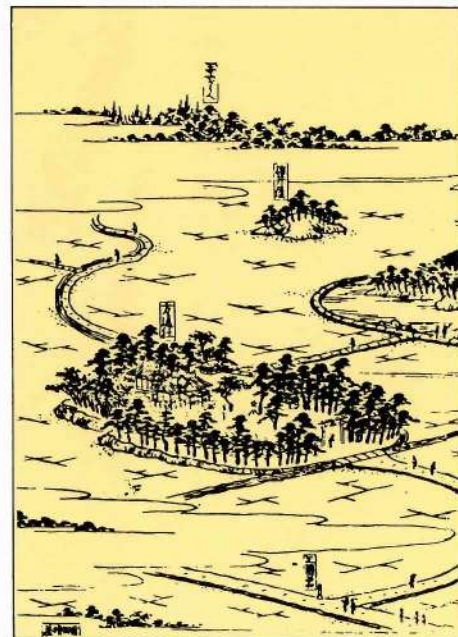
また、吾々が居住している家においても、家相上理想的な建築は容易ではなく、吾々が知らず知らずの間に、又知りながら方も方位を犯して新築、改造、転宅、旅行等を行なう時、



古来唯一の方除けの守護神として、方位、地相、家相、日柄、厄年等に由来するすべての災難を取り除かせられ、幸をもたらすというその御神徳は、口伝えに、地元を初めとして、全国に及び参拝者は跡を絶たず、広く厚く尊崇せられている。

以上のように朝廷武家の尊崇が厚く、昔より勅願の神社にして維新前迄は毎年禁裏より御撫物御奉納あり、また当社よりは御神符に菰の葉の粽及び巖乃真飴を添へて献上せしものなり。

以上のごとく国土国民、一切生業の守護神として、わけても古来唯一の方違——方災除けの守護神として、御神徳は広大無辺にあらせられる。



和泉名所図会所載

神武天皇の丹生川上御斎禱の故事『日本書記』卷第三神日本磐余彦天皇（神武天皇）の段より

※④ 神武天皇、東征の折、難波にて長髓彦に迎撃され苦戦のときに、天神の夢託にて、天香山の社の土を取って帰り、平瓦八十枚をつくり、またお神酒を入れる瓶をつくり、天神地祇を祀り、身を清めて祈禱せよ、さすれば敵は自然に降伏するだろう、との教えのもとに、丹生の川上で諸神を祀られた。また神意を占い、「沢山の平瓦で水なしに飴を造ろう、もし飴ができれば武器を使わないで、天下を居ながらに平げるだろう」と、飴造りをされると、たやすくできあがった。

その後、神託どおり大和を平定された、との故事。



『方違宮縁起』巻末（堺市博物館収蔵）
火災神事斎行を描いたもの。

御祭礼

歳旦祭……………一月一日・午前七時

新年の幸福と繁栄を祈願。三カ日初釜茶席あり。

左義長神事……………一月十五日・午前七時半（とんど八時～五時）

小正月に行なわれる祭、その年の無病息災を祈願。正月の飾物などをお焚き上げる。

節分祭……………二月三日・午前十時（とんど九時～九時）

厄除祭として広く知られたる火焚の神事。

稲荷大祭……………四月五日・午後二時

当社境内地に祀る稲荷大神の初午大祭

粽祭（例大祭）……………五月三十一日・午前十時半

●湯神楽神事……………同 右 午後一時半

●お砂持神事……………同 右 午後二時

当社の御例祭にして、一年中授与する菰の葉の粽を御神前に奉る特殊神事。これを奉賛して当日御湯神楽、御砂持神事、茶会を催す。

夏越大祓……………六月三十日・午後三時半引き続き「茅輪神事」

半年間の罪穢を除き、心身の清浄ならんことを祈願。

「みな月のなごしの祓する人は千年の命のふといふなり」

奉幣祭……………八月一日・午前八時半

（月次祭に準ず）

崇敬者各位の御繁栄と御幸福を御祈願の上、御幣を授与。

秋祭宵宮祭……………九月十五・午前九時

秋季例大祭……………九月十六日・午後一時

秋季田実祭……………九月十七日・午前十一時

十五日には各町内より稚児多数参加宮入行列あり。

粽祭（五月三十一日）について

神功皇后三韓出兵の時、天神地祇三千七百五十余座を勧請し、特に、住吉大神を魁将として、すみやかに平定し、御凱陣に此津の地守の浦に着岸し五月晦日葦の葉に埴土をつみ方違の祓をなし給う故事により、毎年五月三十一日に行われる当社の例大祭にして、一年中授与する粽を御神前に奉る特殊神事である。旧を遂いで菰の葉で境内の土を包んだ粽を受ければ方位から来る災いを免れることができるとされ、この粽が転居や旅行等の場合の悪方位をはらうものとして信じられるようになる。

祭りの当日、まずその年に授与する粽を奉献し、午後より「湯神楽」があり、神前の大きな釜の湯の中に米・酒・塩を入れて奉納し、巫女が釜のお湯を笹の葉で振りまき、無病息災を祈願する。続いて稚児によるお砂持神事が執り行われ、雅楽の調べと共に、清めの砂を天秤棒で運ぶこの神事は、参拝者の目を大いに楽しませてくれる。



当日、御神前に奉る粽

十五、十六の両日は布団太鼓が氏子内をねり行き夕刻境内に参入す。又境内に於ては夕刻より奉納演芸と催しあり賑わう。十七日は収穫した初穂を神前に奉り感謝の祈りを捧げる。

七五三詣……………十一月一日より一カ月間

児童の成育を祝福する儀式にて、七才の女兒、五才の男児三才の男女児が新衣を着飾って神の御加護を祈請する。

年越・師走大祓……………十二月三十一日・午後三時半

一年間の罪・穢を祓って清々しく新しい年を迎える。

月次祭……………毎月一日・十五日・午前八時半 厳修

（但し、一月一日、九月十五日は除く）崇敬者参列自由。



夏越大祓（茅の輪くぐり）



榎のふとん太鼓



湯神楽神事



お砂持神事

（和泉）堺方違大明神祭 和泉国堺津にあり。神功皇后三韓を征し給ふ。御帰陣の以後住吉の御神皇后に託し給ひ、吾和魂よろしく大津の淳中倉の長英に居べし、ただ往來の船を見ん、と宣へり。去によつて今の敷津といふ所に宮居を造り三神鎮座の地と為給へり。其荒魂といふは筑紫の小戸にあり。其和魂は皇后に託し給ひて真住吉の国なりとて住吉に鎮座し給ふとて此所より住吉に御鎮座ありしなり。其垂跡の明神と崇奉れりしによつて、造作首途するものは此所の土を受けて地に埋み、又は旅に持行也。方角の災を除く事靈驗著し。住吉御造宮の時は此宮も御造宮なり。当社の別当向泉寺より今日土の粽を詣人に授く。

速水春曉齋「大日本年中行事大全」（天保三年辰七月刊）より抜粋
一八三三年江戸時代に紹介された粽祭の文獻

御祈禱受付

午前八時半より午後四時まで

定休日

毎月九日・十九日・二十九日は

御祈禱を休みます

(土曜・日曜・祝日・大安を除く)

方違神社参拝乃栞

〒590-0021 大阪府堺市北三国ヶ丘町

二ノ二ノ一

方違神社社務所

電話(〇七二二) 三二一ー二一六

FAX(〇七二二) 三三ー三八二六



御祭神

方違幸大神(四座)

八十天万魂神(天神地祇)

素盞鳴命

三筒男大神(住吉大神)

息氣長足姫命(神功皇后)

御神徳

当神社奉斎地は、昔百舌鳥耳原又は石津原と称し、摂津住吉郡・河内丹治比郡・和泉大鳥郡の三国の境界なる故に、三国丘と称し、この三国の境で何処の国にも属さない、又方位の無い清地であると言う考え方に依りその境内の御土と菰の葉にて作られた粽は、悪い方位を祓うと言う信仰を以て方災除の神として広く知られている。

御由緒

崇神天皇の御代、物部大母呂隅足尼が、この地に素盞鳴命をお祀りになり、神功皇后が三韓より御凱旋になった時、住吉大神の御神教により、神武天皇の丹生川上御斎禱の故事に倣はせられて、この地において親しく天神地祇を祀り、皇軍の方災除を祈り、忍熊王等の賊兵を平らげられた。次いで住吉大神を、今の住吉の地に御鎮座の際、菰の葉に埴土を包み粽として奉り、方違の祈禱をされた霊地である。その後応神天皇の時代に、素盞鳴命、住吉大神、神功皇后を合祀し、方違宮と称せられた。古くより勅願の神社で、維新前までは毎年禁裏より御撫物の奉納があり、当社より御神符に菰の葉の粽、及び真飴を添えて献上されていた。以上のようなことから、当社は古くから方災除の神として知られ、崇敬者は全国にひろがり普請、転宅、旅行等の場合には当社の神符及び粽を受け、或は方除祈禱の修祓を望む方が、すこぶる多く現在に至っている。

御祭典

月次祭——毎月一日・十五日

午前八時半 厳修

歳旦祭——一月一日

新年の幸福と繁栄を祈願する。

節分祭——二月節分

厄除祭として広く知られたる火焚の神事あり。

粽祭——五月三十一日

当社の例大祭にして、一年中授与する粽を御神前に奉る特殊神事なり。

夏越の祓——六月三十日

当日茅輪の神事あり。

秋祭

九月十五・十六・十七日

十五日は各町内より稚児多数参加宮入行列あり。

又、十五・十六日は氏子

内より蒲団太鼓を舁き出し、夕刻境内に参入する。

師走大祓——十二月三十一日

一年間の罪・穢を祓って清々しく新しい年を迎える。

御札・粽・御砂の祭り方

転宅・家相

○御砂は入口から家の周囲、もしくは四隅に撒いて清めて下さい。マンシヨンの場合、御砂を玄関ドアの内外とベランダに撒いて下さい。

○御札は神棚で祭るか、壁に北向きにならぬよう清浄な場所にてお祭り下さい。

○粽は玄関もしくは、方位の悪い所に御貼り下さい。この場合はどちら向きでもよろしい。

新築・増改築

○御砂は建築予定地の四隅に撒いて清めて下さい。又、増改築の場合は工事箇所撒いて下さい。

○御札は新築棟上の時は、棟木の束に北向きにならぬよう御貼り下さい。増改築の場合は神棚もしくは、普請箇所にてお祭り下さい。（但し、厠・湯殿等不浄なる所は避ける。）

○粽は新築の場合はその土地の中央に埋め、修理改造の時は、その箇所又は方位の悪い所へ御貼り下さい。

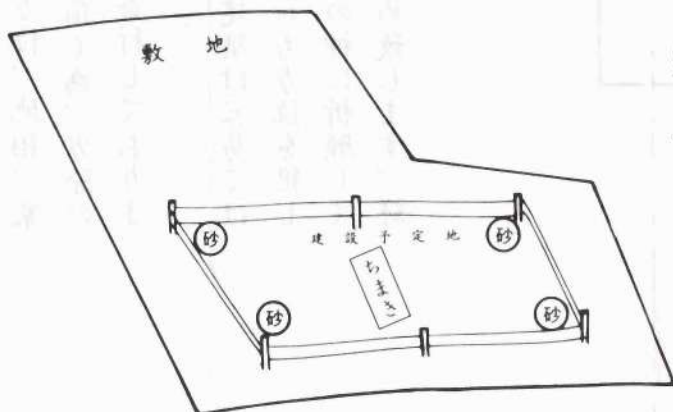
交通 安全

○御砂は車庫の四隅に撒いて下さい。粽は車庫の入口に貼るか、もしくはダッシュボード等に入れて下さい。

その他の諸祈願

○厄除、旅行安全、初宮詣、学業成就、病氣平癒等、これらの場合も転宅、家相に準じてお祭り下さい。

御神札は、他の神社で授けられたのとは一緒にお祭りになっても結構ですが、寺院で受けになった御札とは別にして下さい。又、一年を目安に出来るだけ新しい御札をお受け下さい。

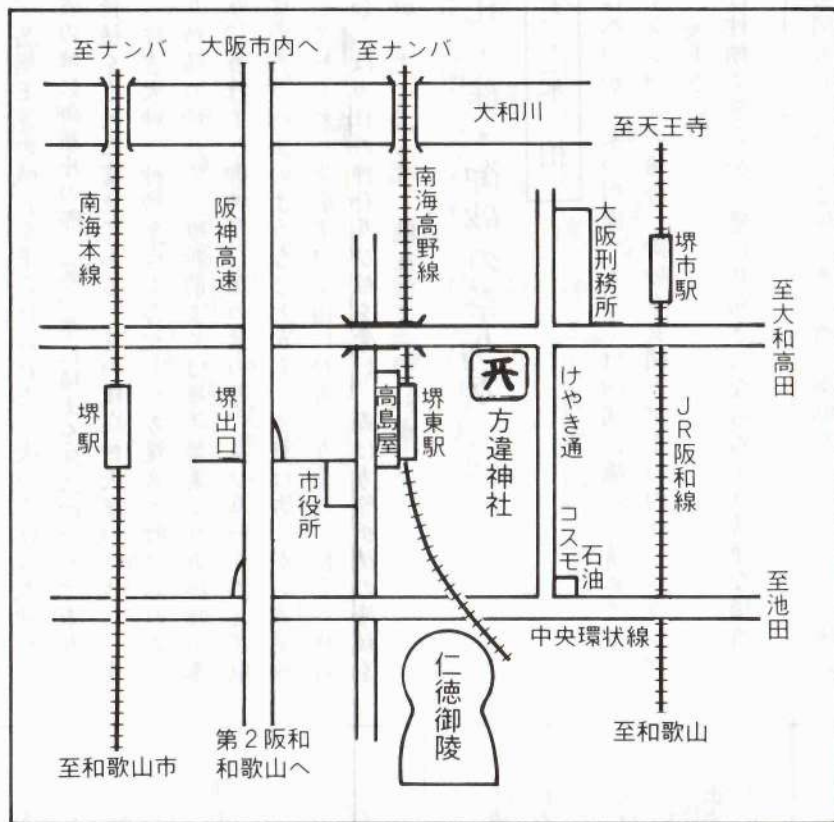


御砂は着工の折四隅に撒き、粽は基礎工事終了後、中央に埋める。

「方災除けについて」

方違神社は古くから方災除け守護神として方位、地相、家相、厄除け等に由来する一切の災禍から守って頂く為、方除の御札、粽、御砂の授与並に方災除の御祈禱を齎行しております。

皆さんが居住しておられる家が家相上理想的な建築は容易ではなく、吾々が知らず知らずの間に、又知りながらも方位を犯して新築改造・転宅・旅行等を行なう時、方除けの神に祈願してその災難から逃れる様、御祈念される事をお奨め致します。詳しくは社務所へ御照会下さい。



- ・ 南海高野線 堺東駅より東へ 徒歩5分
 - ・ 南海本線 堺駅より タクシー5分
 - ・ JR 阪和線 堺市駅より西へ徒歩10分
 - ・ 阪神高速堺線 堺出口より 車で3分
- (出口を出てすぐの信号でUターン、2つ目信号右へ)